

CLEANTECH NEWS



デックン

ISO 14001 認証取得
飯坂クリーンサイト

クリーンテック通信

2026
VOL.87
WINTER

毎年1・4・7・10月発行

株式会社 クリーンテック

発行責任者/反後 太郎

福島市飯坂町中野字赤落27番

TEL 024(541)2811

「フードバンク」をご存知ですか？

株式会社クリーンテック

代表取締役

反後 太郎



新年あけましておめでとうございます。
本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年は日本で初の女性首相誕生や株価上昇など明るい動きがありました。一方でウクライナ情勢や米国の政策など、世界の不安定さは続いています。

さて今年には日本の食品廃棄の現状や課題、海外との違いについて考えてみたいと思います。ところで「フードバンク」というのをご存知でしょうか？フードバンクとは、まだ食べられるのに廃棄されてしまう食品を企業や個人から寄贈してもらい、それを必要としている人や団体に届ける活動のことです。日本でも最近「食品ロス」という言葉が浸透してきましたが、まだまだ捨てられている食品の量は多く、2023年度の推計では年間約460万トンにも上ります。これは理論上およそ730万人から1210万人が1年間に消費する食料量に相当します。最近の報告によると世界ではおよそ6億7300万人が恒常的飢餓にあり、推定されているそうです。日本の食品ロスの量から推計すると年間約11%、18%の飢餓人口を救える計算になります。これらは家庭から出るものと、事業者から出るものがほぼ半分ずつとなっており、今の日本は単なる「もったいない大国」というレベルを超えた大きな問題に直面しているといえるのではないのでしょうか？

そんな中で、フードバンクは社会的な

セーフティネットとして注目されるようになりました。代表的な団体である「セカンドハーベスト・ジャパン」は2002年に設立され、全国各地のNPOや社会福祉協議会、子ども食堂などと連携しながら、企業から余剰食品を集め、高齢者、一人親家庭など困窮世帯に直接届ける仕組みを整えつつあります。また、食品ロス削減推進法が2019年に施行され、国としてもフードバンクを支援する姿勢を明確にしました。

しかし、日本のフードバンクにはまだ多くの課題があります。

まず、海外と比較すると、法制度面での課題があります。海外では免責制度が整い、企業が寄付しやすい環境が制度に支えられています。例えば、アメリカでの「善きサマリヤ人法」という免責制度や、フランスの「食品廃棄禁止法」が挙げられます。一方、日本には十分な免責制度がなく、寄付企業には「食中毒などの万が一の責任リスク」が残るため、寄付をためらう企業も少なくありません。

次に、寄贈される食品の内容では、米や乾物に偏りやすく、たんばく質、野菜、乳製品などが不足しがちです。

さらに、運営体制やインフラの不足も深刻です。多くのフードバンクはNPOやボランティアで運営され、資金が不安定で職員も無給や短期契約が多いのが実情です。冷蔵・冷凍設備や物流体制の整備には大きなコストがかかり、活動の拡大を妨げる要因となっています。

それでも希望はあります。消費者庁や環境省、農林水産省は連携して食品ロス削減の基本方針を打ち出しました。近年、企業のESG経営の意識も高まり、「社会的価値を生む企業活動」として「食料の寄付」を取り入れる企業が増えています。また、自治体レベルでもフードバンク支援を通して、地域の学校や医

療機関、社会福祉法人などと連携し、「食の支援」を起点に就労や教育、住宅支援へとつながる包括的な支援の形も広がっています。

これから日本が目指すべき方向としては、大きく五つのポイントがあると思います。一つ目は、フードバンク同士や自治体、企業の在庫や需要を「見える化」し、効率的にマッチングできる仕組みを作ること。二つ目は、冷蔵・冷凍など多様な食品を扱うための物流・保管インフラを整備し、特に地域ごとの「冷たい流通網（コールドチェーン）」を強化すること。三つ目は、企業が寄付しやすくなるように税制や法的な枠組みを整えること。責任を限定し、善意が報われやすい環境づくりが必要です。四つ目は、単なる食料支援で終わらず、生活困窮者への伴走支援と一体化すること。フードバンクを「生活再建への入口」として機能させることが重要だと思います。そして五つ目は、現場を支える人材を育てること。食品衛生やサプライチェーン、データ管理の専門知識を持った職員を育て、活動を「プロフェッショナルな公共サービス」として確立する必要があります。

日本のフードバンクの強みは、地域に密着したきめ細やかさと、高い食品安全基準です。これを生かしつつ、法制度やデータ、物流、人材をつないでいけば、食のセーフティネットはもっと強くなるのではないのでしょうか。人々の「善意」に頼るだけでなく、海外のように法制度や税制を含む「仕組み」として回る社会を目指すことが、これからの日本に求められていると思います。つまり、フードバンクを「点のボランティア」から「面の社会インフラ」へと発展させることこそが、食品ロス削減と貧困対策の両立につながると思います。日本の食を無駄にしない仕組みを、次の世代へどう残していくか――

私たち一人ひとりが些細でも身近な行動から何ができるのか考え、実行していくことが大切だと思います。

最後になりますが今年も飯坂クリーンサイトの維持管理運営には細心の注意を払い、お預かりした廃棄物をしっかりと管理していきたいと思っています。私達クリーンテックメンバー及びグループが一丸となって、これまで同様に環境を守る

あけまして
おめでとうございます

本年もどうぞよろしく
お願いいたします



べく日々の業務に取り組んでまいります。引き続きご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。



クリーンテックへようこそ!

昨年も環境学習の一環として多くの方にご来場いただきました。見学中は、皆様
が熱心に説明へ耳を傾ける姿が多く見られました。来場者の皆様からのご意見は今
後の運営に活かし、地域の皆様に親しまれる、安全・安心な最終処分場を目指して参
ります。皆様のご来場を社員一同お待ちしております。



主な御来訪者 (2025年7月～2025年11月)

月 日	団 体 名	人数
7 月 9 日(水)	福島民報社「みんぼう社会科教室」	43名
8 月 4 日(月)	福島市信陵学習センター「少年学級『信陵ジュニアカレッジ-SJC-』」	15名
9 月 9 日(火)	福島市信陵学習センター「あづま男と淑女の会」	14名
9 月17日(水)	福島市もちずり学習センター「もちずりレディース」	14名
10月27日(月)	福島市西学習センター「西ことぶき学級」	25名
11月11日(火)	福島民友新聞社「みんゆう社会科教室」	41名
11月13日(木)	一般社団法人実践倫理宏正会	14名
11月25日(火)	北信地区三地区町内会連合会合同研修会	32名

【お問い合わせ先】

窓口：㈱クリーンテック 飯坂クリーンサイト
TEL：024-541-2811 (担当：総務課)



株式会社
クリーンテックHP

「見学会についての問い合わせ」とお伝えください。

※見学会は4月～11月までの平日のみの開催となります。積雪等によりやむを得ず中止や延期さ
せていただく場合もございますので予めご了承ください。

※ホームページからもお問い合わせ可能です。 URL: <https://www.clean.ne.jp>

安全・安心のために

2025年5月22日、福島市廃棄物対策課が来場
し、廃棄物(燃え殻)を採取されました。

検査結果は以下の通り、全て基準値以内でした。

福島市による燃え殻採取▶



■燃え殻 (採取日 2025年5月22日)

分析対象項目 (抜粋)	分析の結果 (mg/L)	基準値 (mg/L)
カドミウム	検出せず	0.09以下
シアン化合物	検出せず	1.0以下
鉛	検出せず	0.3以下
六価クロム化合物	検出せず	1.5以下
砒素	検出せず	0.3以下
総水銀	検出せず	0.005以下
アルキル水銀化合物	検出せず	不検出
P C B	検出せず	0.003以下

※福島市との環境保全協定に基づき、当社では、マニフェスト(産業廃棄物管理票)の確認や水質デー
タの確認調査を定期的に受けております。

■各行政機関による立入り (2025年9月～2025年11月)

月 日	行政機関	目 的
2025年 9 月 1 日(月)	福島県農林水産部森林保全課、 福島県東北農林事務所森林土木課	立入調査【林地開発許可変更届に伴う現地確認】
2025年 9 月 9 日(火)	福島県東北地方振興局 環境課	立入調査【産業廃棄物収集運搬業許可更新 申請に伴う現地確認】
2025年10月20日(月)	福島市廃棄物対策課	立入調査【第一期・第二期放流水サンプリング】
2025年11月 5 日(水)	福島市廃棄物対策課	立入調査【第一期・第二期上下地下水サン プリング、廃棄物サンプリング】

法規定及び福島市との『環境保全協定書』に基づき、放流水の水質を定
期的に測定しています。毎月2回測定(測定は外部専門会社へ委託)してい
る以下の項目は、直近の3ヵ月(9月～11月)は法及び協定書いずれに対
しても基準値以内でした。 ※3ヵ月で最も新しいデータ(2025年11月5日採水)

水質検査 報告

	放流水(水処理後)		
	第1期測定値	第2期測定値	法規定基準値 (※1)
B O D	1 mg/L未満	1 mg/L未満	60 mg/L
C O D	6 mg/L	2 mg/L	
S S	1 mg/L	1 mg/L未満	60 mg/L
大腸菌数	1 CFU/mL未満	1 CFU/mL未満	800 CFU/mL

B O D⇒水中の有機物が好気性微生物により分解される時に消費される酸素
の量、少数値が良い

C O D⇒水中の有機物等を酸化する際に消費される酸化剤の量を酸素の量に
換算したもの、少数値が良い

S S ⇒水中に浮いている直径2mm以下の粒子状物質の量、少数値が良い

※1 一般廃棄物の最終処分場及び産業廃棄物の最終処分場に係る技術上の基準を定める省令

放射能管理状況 (2025年9月～2025年11月の3ヵ月実績)

※場内、放流水、地下水、搬入廃棄物の放射線量等測定結果

測定対象		測定項目	測定頻度	測定結果(カッコ内は平均値)
場内	埋立場所	放射線量	毎日1回	0.04～0.11μSv/h (0.07)
	処分場周辺	放射線量	週1回	0.03～0.15μSv/h (0.08)
放 流 水		放射性物質	月2回	不検出
地 下 水		放射性物質	月1回	不検出
搬入廃棄物		放射線量	全車両	0.038～0.323μSv/h (0.13)

2000年10月に入社した佐藤清隆さんは、重機操作のプロフェッショナルです。現在は飯坂
クリーンサイトでの経験を活かして、「エコグリーンとちぎ」に出向し、埋立現場を牽引しています。



ベテラン社員の 人柄紹介 PARSONALITY

几帳面で愛妻家、
使命感あふれる
ストイックな職人



エコグリーンとちぎ
施設保全部 埋立管理担当
佐藤 清隆 さん

開業当初は、廃棄物を搬入するトラックのドライバー様からのご助言をいただき場内
の搬入経路を整備するなど、社員だけでなく多くの方々のご協力を得ながら飯坂クリー
ンサイトを創っていました。

少人数での運営だったこともあり、年に一度は社員旅行に出かけたり、社員の家族を
旅館に招き会食を開いたり、交流の場を大切にしていました。妻との結婚は、社内結
婚第1号でもあり、現会長夫妻に人前式の仲人役をしていただいたことも良い思い出です。

重機オペレーターとして埋立現場に立った当初は、仕事をこなすだけで精一杯でしたが、
経験を積むにつれ「やるからには綺麗にしたい!どこをみても綺麗な処分場にしたい!」
と思うようになりました。

これからの現場を担っていく後輩たちにも、自分の仕事に自信と誇りをもち、この仕
事は自分でなければいけないという気持ちで仕事に取り組んでいって欲しいです。

お問い合せ
相談窓口

〒960-0261 福島市飯坂町中野字赤落27番
TEL 024-541-2811 FAX 024-541-2510
各種お問い合わせはホームページをご覧ください。▶ <https://www.clean.ne.jp>

許可品目

燃え殻、汚泥、廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラスくず・コンクリートくず
(工作物の新築、改築又は除去に伴って生じたものを除く。)、及び陶磁器くず、鋳さい、がれき類、ばいじん、
政令第2条第13号に掲げるもの(これらのうち、石綿含有産業廃棄物、水銀含有ばいじん等、水銀使用製
品産業廃棄物及び自動車等破砕物を含み、特別管理産業廃棄物であるものを除く。)、以上13種類